

■萩の里自然公園 :環境ふれあい公園/白老町

基本計画(平成6年) 自然環境調査(平成7,9年)
基本設計(平成8年) 実施設計(平成10,11,15年)

(撮影日:2005/08/03)



建築設計: (株)アトリエアク



萩の里自然公園は、戦後しばらくは薪炭林として里山的な利用がなされてきました。しかしその後50年近く放置された結果、小径木が密生し荒れた林相を呈していました。白老町は、平成10年に環境ふれあい公園として計画決定し、平成19年までの予定で整備を進めています。

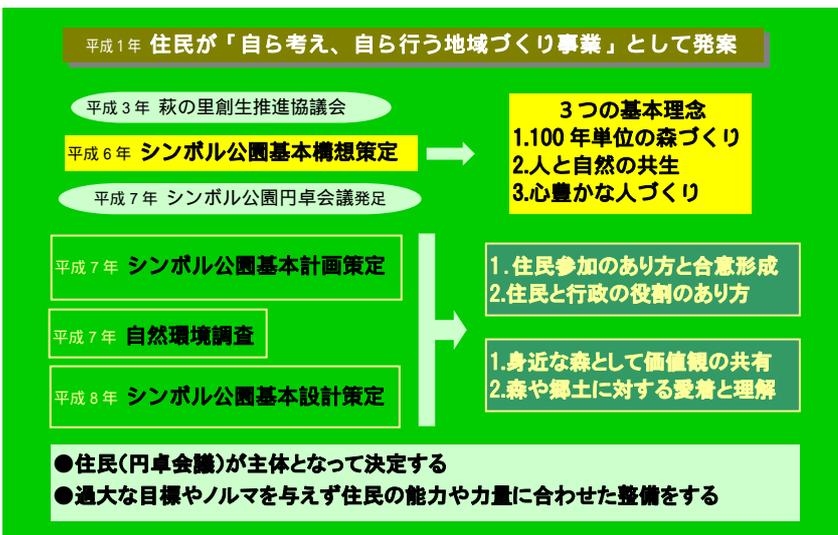
平成10年から相次いで結成された住民ボランティアが主体となって公園の維持管理や運営に直接係わりながら地域の自然や景観を創り出す活動を行っています。

その活動は、公園周辺の川や田園地帯の環境や景観の保全活動へと広がりを見せています。



白老町 萩の里自然公園

～住民が創る里山景観～



「萩の里自然公園」は平成元年に創設された「ふるさと創生事業」の「自ら考え、自ら行う地域づくり事業」として広く町民に意見を求めた結果、21世紀にむけて町民の財産となる「シンボリックな公園」の建設構想が立案され、

- 1.100年単位の森づくり
- 2.人と自然の共生
- 3.心豊かな人づくり

の3つの理念を掲げた。

この理念に従って基本計画、基本設計を策定し、住民が主体となって造る里山のあり方、行政と住民の役割などが示された。



間伐して明るい森となったことで、シャク、ヒメジヨ、タカアザミ、タチギボウシなど、林床にたくさんのお花畑のような景観が出現した。夏にはたくさんの蝶が舞う森となった。

萩の里自然公園及びその周辺で活動する主な環境ボランティア

白老山岳会

- ・萩の里自然公園内での間伐、下草刈りなど森づくりボランティア活動
- ・アクション森づくり・白老
- ・森と親しむボランティア活動
- ・青少年の自然体験活動
- ・里山づくり技術研修会の主催植物ボランティアグループ・サリカリア

- ・在来植物エゾミソハギの保護増殖による水辺の美しい環境づくり
- ・雑木林の手入れによる林床植物の保護増殖、里山植物園づくり
- ・五年会

萩の里自然公園内での森づくりボランティア活動

- ・エコの森ウヨロクラブ
- ・2級河川ウヨロ川の約17haの河川敷を北海道から借地し、河畔林の保全・創出活動
- ・ウヨロ環境トラスト
- ・ウヨロ川の下流から中流域の田園景観を保全するため、土地を所有し自然を残すナショナルトラストと環境ボランティア活動を柱とする。これまで約2.2haのカラマツ林を所有し、森林施業や萩の里自然公園とウヨロ川を巡るフットパス整備などを行う



価値観の共有による整備イメージ

身近な自然は皆のものであり、皆で活用し運営する。(当初は円卓会議が中心的役割を担う)

利用できないこともある自然を認識し、自然に合わせた利用を考える。自然に与える影響を常に考へ、自然への負荷をできるだけ少なくする。サルメンエビネ、ハイタカ、ヘイケボタルなど指標やシンボルとなる生物の生息できる状態の維持を目標に保全の方法を考える。

利用しない自然は必ずしも放置することではなく、適切に手を入れることも必要だ。

新しい自然をつくる前に今ある自然を生かす。

その場の持つ自然の特性を生かす。

住民主体で他の分野の人、いろんな立場の人が一緒になってつくる。

整備諸元

名称：萩の里自然公園

所在地：北海道白老町

発注者：白老町

設計期間：平成7年～平成15年

規模・対象面積：200ha

設計者：北海道造園設計株式会社